

## 1. 発表の概要

「あたかも～かのように」を意味する **als ob** 文は（日本のドイツ語教育では多くの場合）接続法第2式（≒仮定法過去）を用いる「非現実話法」の枠で紹介・説明されている。<sup>1</sup>

(1) Anna hat natürlich Interesse, doch sie tut so, **als ob** sie kein Interesse **hätte**.

Anna \_ has \_ of course \_ interest \_ but \_ she \_ acts \_ so \_ as if \_ she \_ no \_ interest \_ had 接II

アンナはもちろん興味を持っていますが、興味がないような振りをします。

「現実に起きた出来事から受ける印象が、他の、現実とは異なる非現実の出来事から受ける印象と同一であることを表わす。」（在間 2017: 56）

この構文を非現実話法の1タイプとして説明することの問題点を指摘し、代替案を示す。

## 2. ドイツ語の接続法の概観

### 2.1. 形態: 接続法第1式(接I)と接続法第2式(接II)

接I : sein (be)以外の多くの動詞は3人称単数を除くと直説法現在形と（ほぼ）同じ形。

接続法第1式変化表

	sein (be)		haben (have)		werden (become)		fahren (go)		singen (sing)	
	直現	接I	直現	接I	直現	接I	直現	接I	直現	接I
ich (I)	bin	<b>sei</b>	habe		werde		fahre		singe	
du (you)	bist	<b>seiest</b>	hast	habest	wirst	werdest	fährst	fahrest	singst	singest
er (he)	ist	<b>sei</b>	hat	<b>habe</b>	wird	<b>werde</b>	fährt	<b>fahre</b>	singt	<b>singe</b>
wir (we)	sind	<b>seien</b>	haben		werden		fahren		singen	
ihr (you)	seid	<b>seiet</b>	habt	habet	werdet		fahrt	fahret	singt	singet
sie (they)	sind	<b>seien</b>	haben		werden		fahren		singen	

<sup>1</sup> 関口 (1980a: 270f.), 在間 (2017: 56f.), 中山 (2006: 220), 岡本 (2014: 168f.), 浜崎他 (2008: 131), 成田/櫻井 (2018: 68), 三好 (1977: 325ff.)

接 II : 直説法過去形を基にして作る。規則動詞(例:lernen)は直説法過去形と完全に同形。

接続法第 2 式変化表

	sein (be)		haben (have)		werden (become)		lernen (learn)
	直過	接 I	直過	接 I	直過	接 I	
ich (I)	war	wäre	hatte	hätte	wurde	würde	lernte
du (you)	warst	wärest	hattest	hättest	wurdest	würdest	lernstest
er (he)	war	wäre	hatte	hätte	wurde	würde	lernte
wir (we)	waren	wären	hätten	hätten	wurden	würden	lernten
ihr (you)	wart	wäret	hattet	hättet	wurdet	würdet	lerntet
sie (they)	waren	wären	hätten	hätten	wurden	würden	lernten

2.2. 用法:「間接話法」(接 I /接 II), 「要求話法」(接 I), 「非現実話法」(接 II)

「間接話法」

- (2) Thomas sagt, er **sei/wäre** krank. トーマスは自分が病気だと言う。

Thomas \_ says \_ he \_ be 接 I /were 接 II \_ ill

「要求話法」

- (3) Jeder **tue** sein Bestes. 各々がベストを尽くすように。

Everyone \_ do 接 I \_ his \_ best.

「非現実話法」

- (4) Wenn ich Geld **hätte, würde** ich das Buch kaufen. お金があればその本を買うのだが。

If \_ I \_ money \_ had 接 II \_ would 接 II \_ I \_ the book \_ buy

- 形態的に、接 I は直説法現在形と、接 II は直説法過去形と類似している、あるいは同一だが、接 I が現在のこと、接 II が過去のことを表わすというわけではない。

・(2)は接 I も接 II も「病気だと言う」の意味。「病気だったと言う」は完了形を使う。

Thomas sagt, er **sei/wäre** krank **gewesen**. トーマスは自分が病気だった言う。

Thomas \_ says \_ he \_ be 接 I /were 接 II \_ ill \_ been (sei/wäre ... gewesen で完了形)

3. als ob 文の問題点

als ob 文の定動詞 (finite verb) として、接 II の他に接 I や直説法 (indicative) も可能。

- (5) Hans tut so, als ob er **schliefe/schlafe/schläft**. ハンスは眠るふりをする。

Hans \_ pretends \_ so \_ as if \_ he \_ slept 接 II / sleep 接 I / sleeps 直現

- 非現実話法の定動詞は接 II のみとされているので、als ob 文を「非現実話法」とすると、接 I および直説法の使用を例外扱いしなければならなくなる。
- 橋本文夫は『詳解ドイツ大文法』で、als ob 文は「印象」を表す「間接話法」の一種と見るべきであると指摘。

- 関口存男も『接続法の詳細』では als ob 文を「非現実話法」との中間現象として「間接話法」の章で説明している。

[A] als ob 文 (als+定動詞文を含む) における定動詞の形態の調査

- ・ ob を省き定動詞を前置することも可能。ただし直説法は稀。

例えば(5)は Hans tut so, als **schliefe/schlafe** er. としても同じ意味になる。

[B] als ob 文において、接Ⅱ，接Ⅰ，直説法による（非）現実性の違いはあるのか？

[C] als ob 文は「非現実話法」として説明するのが最善か？

#### 4. als ob 文(als+定動詞文を含む)における定動詞の形態の調査([A])

4.1. DWDS (Digitales Wörterbuch der Deutschen Sprache ドイツ語デジタル辞典) の Kernkorpus 1900-1999 (基本コーパス) から 100 例, Referenz- und Zeitungskorpora (参照・新聞コーパス) から, 1918-1968 年で 100 例, 1968-2018 年で 100 例の als ob 文を収集。表 a-c。

4.2. Franz Kafka „Die Verwandlung“ カフカ「変身」と Michael Ende „Momo“ エンデ「モモ」から als ob 文と als+定動詞の文を全例抽出。表 d と e。

- sein を除いて, 1・3 人称複数 は直説法現在形と接Ⅰの形態の区別がないので除外。

aber es scheint, als ob wir **stehen**. でも, 私たち (=船) は止まっているように思える。

but \_it\_ seems \_as if\_ \_we\_ \_stand\_ 接Ⅰ=直現 (a から)

- 規則動詞 (弱変化動詞) の接Ⅱは直説法過去形と同形なので除外。

als ob Du aus tiefem Schlaf plötzlich **erwachtest**

as if \_you\_ \_from\_ \_deep\_ \_sleep\_ \_suddenly\_ \_awoke\_ 接Ⅱ=直過 (a から)

##### a. DWDS Kernkorpus 1900-1999

	接Ⅰ	接Ⅱ	直説法	合計	接Ⅱ/直過	接Ⅰ/直現
als ob ... V	20 (21.7%)	62 (67.4%)	10 (10.9%)	92 (100%)	15	1

##### b. DWDS Referenz- und Zeitungskorpus 1918-1968

	接Ⅰ	接Ⅱ	直説法	合計	接Ⅱ/直過	接Ⅰ/直現
als ob ... V	15 (16.0%)	64 (68.1%)	15 (16.0%)	94 (100%)	10	2

##### c. DWDS Referenz- und Zeitungskorpus 1968-2018

	接Ⅰ	接Ⅱ	直説法	合計	接Ⅱ/直過	接Ⅰ/直現
als ob ... V	12 (14.1%)	56 (65.9%)	17 (20.0%)	85 (100%)	9	8

##### d. Die Verwandlung 「変身」

	接Ⅰ	接Ⅱ	直説法	合計	接Ⅱ/直過	接Ⅰ/直現
als ob ... V	0	0	0		3 *	0
als V	27 (81.8%)	6 (18.2%)	0	33 (100%)	3 **	0

e. Momo 「モモ」

	接続法 I	接続法 II	直説法	合計	接 II / 直過	接 I / 直現
als ob ... V	3 (16.7%)	9 (50.0%)	6 (33.3%)	18 (100%)	5 *	1 **
als V	33 (70.2%)	14 (29.8%)	0	47 (100%)	1 ***	
合計	36 (55.4%)	23 (35.4%)	6 (9.2%)	65 (100%)	6	1

調査結果

- i. 接 I, 直説法もかなり用いられている。⇒ 例外と見なすのは不適切。
  - ii. a (1900-1999)から b (1918-1968)さらに c (1968-2018)と接続法が減少, 直説法が増加する傾向が見えるが, それほど明瞭ではない。
  - iii. Die Verwandlung と Momo では als ob より als +V が (断然) 多い。(意外な結果)
    - ・日本のドイツ語教育 (語学書・教科書など) で「als+定動詞」文は als ob 文の一変種として副次的に扱われているが, 関連文献 (Frederike Eggs, Die Grammatik von als und wie, 2006) を見ると, 「als+定動詞」文の方が als ob 文より頻度は高いという記述が見られた。ドイツ語教育での「als+定動詞」文の扱いを再考する必要がある。
  - iv. Die Verwandlung と Momo では接続法 2 式はむしろ少数派。(意外な結果)
    - ・als ob 文と等価と見なせる「als+定動詞」文における定動詞の分布 (接 I が明らかに多数派) から, als ob 文を「非現実話法」の 1 タイプとするのは妥当ではない。
5. 接 II, 接 I, 直説法で現実性・非現実性に違いはあるか? ([B])
- 5.1. 接 II か接 I か直説法かで現実性に違いがあるという記述もある。
    - (6) als ob, als wenn, wie wenn が直説法を用いることもある。かなり現実性の強い場合に用いる。／ Mir ist, als ob es mit mir zugrunde geht. 私には自分が没落しかけているような気がする。(橋本: 212)
    - (7) Durch Verwendung des Konjunktivs II kann der Sprecher verdeutlichen, dass er eine irrealer Bedeutung meint, z. B. Es klingt, als ob er hingefallen wäre im Unterschied zu Es klingt, als ob er hingefallen sei. – Duden, richtiges und gutes Deutsch (2011:65)  
接 II の使用により話し手は非現実な意味を表していると明示することができる。
  - 5.2. 違いがあるものの, 事実の可能性は重要ではないという記述もある。
    - (8) als ob と接続法第 1 式: この場合副文の内容が, 事実の可能性をもつときは, 接続法第 1 式が用いられる。しかし実際には事実の可能性は問題ではなく, 話に活気を与えるために, あるいは個人の文体によっても決定せられるようである。文語ではまれであるが, 口語ではかなり直説法も用いられ, 特に wie wenn の場合に多い。– 三好 (1977: 325ff.)
  - 5.3. Duden (2009: 522) は接 II の代わりに接 I あるいは直説法を用いても意味の違いはないとしている。
    - (9) Der Konjunktiv II wechselt nach als (ob) ohne erkennbaren Bedeutungsunterschied mit dem

Konjunktiv I (b), wird aber insgesamt häufiger verwendet als dieser. Dies gilt vor allem, wenn der Hauptsatz ein Vergangenheitstempus aufweist. – Der Indikativ ist möglich (c), kommt aber in der geschriebenen Sprache noch immer verhältnismäßig selten vor.

(b) Es ist, *als rase* die Geschichte wie ein ungesteuerter, reißender Fluss an uns vorüber.

(c) Vor der Wohnung stehend hörten wir ein Scheppern, *als ob* jemand gefallen ist.

接 II は明確な意味の違いなしに接 I と交換できるが、全体として接 II の方が頻度が高い。特に主文の時制が過去形の時は接 II が多い。直説法も可能だが、書き言葉ではまだ比較的少ない。

(b) 歴史が制御不能な荒れ狂う川のように私たち脇を流れすぎるようだ。(rase=接 I)

(c) 家の前に立っていると、誰かが倒れたみたいにドタンという音が聞こえた。

### 5.3.1. 非現実とは限らないが接続法 2 式が用いられている例

(10) „Ich gehe wie der Teamchef davon aus, dass wir ins Achtelfinale kommen“, sagt er tapfer, „und deshalb laufen alle Planungen so, als ob wir uns qualifizieren würden.“ Für gut zwei Wochen hat Pfaff das „Paradise“-Hotel auf Jeju gebucht. — Berliner Zeitung, 10.06.2002 (würden =接 II)

「チームマネージャーと同じように、ベスト 16 に進出することを前提にしています。だから、予選を通過をするようにすべての計画が進んでいるのです。」とパフは勇ましく語る。彼は濟州島の樂園のようなホテルを 2 週間ほど予約しているのだ。

(11) Herr Fusi schloss die Ladentür, denn es war ihm, als würde es plötzlich ungewöhnlich kalt in dem kleinen Raum. – Momo (würde =接 II)

フージーは店のドアを閉めた。狭い部屋の中が急に異常に寒くなるように感じたのだ。

### 5.3.2. 事実とは合致しない (はずだ) が直説法の例

(12) Im geborstenen Gemäuer singen nun die Zikaden ihr eintöniges Lied, das sich anhört, als ob die Erde im Schlaf atmet. – Momo (atmet =接 II)

大地が眠って呼吸しているように聞こえる。

(13) Ägyptens Polizei sei bekannt für ihre Integrität und ihre Transparenz, behauptete er. Man werde den Fall Regeni so behandeln, „als ob es um einen Ägypter geht“. Und so versuchten seine Offiziere zunächst, das Ganze als Autounfall zu deklarieren. — Die Zeit, 23.02.2016 (online) (geht =接 II)

エジプトの警察は完璧さと透明性で知られている、レゲーニの件も「エジプト人の案件であるように」扱うだろう、と彼は主張する。ところが、警察幹部は当初すべてを交通事故と断定しようとしたのだ。

### 5.3.3. 接続法 2 式で反事実性が前面に出る「まさか... ではあるまい」という表現もある。

(14) Die Schautafeln zeigen 2,129 Mark für einen Liter Super Plus an. „Als ob wir etwas dafür könnten. Die Preise macht doch der Staat und nicht wir.“ — Der Tagesspiegel, 11.09.2000

表示板にはスーパープラスガソリンがリットル 2.129 マルクと表示されている。「まさか私たち

の責任ではあるまいし。価格は国が決めるもので、私たちが決めるものではない。」

[B] の結論: 接続法 2 式なら非現実性が示され、直説法なら現実性が示されるという傾向はあるかもしれないが、(非) 現実性は定形の選択に決定的な要因ではない。

6. als ob 文は「非現実話法」として説明するのが最善か？

- ドイツの文法書でも *irreale Vergleichssätze* (Engel) や *kontrafaktische Vergleichssätze* (Zifonun et al) 等 als ob 文には非現実性、反事実性を前面に出した名称が与えられている。
- ドイツの文法書にも非現実性・反事実性を前面に出すことを疑問視する叙述も見られる。

(15) Sätze dieser Art werden meist kontrafaktische oder irreale Vergleichssätze genannt. Diese Bezeichnung ist problematisch, weil der vom Nebensatz bezeichnete Sachverhalt ja durchaus zutreffen kann. – Duden, Richtiges und gutes Deutsch (2011:65)

反事実・非現実という呼び方は問題がある。als ob 文が表す事態は事実である可能性も十分にあるからだ。

(16) *Sie versuchen den Ball aus den unmöglichsten Winkeln ins Tor zu schießen. Beckham sieht so aus, als mache ihm das einen Riesenspaß.* (Die Zeit, 6.11.2003) (...) Was im Vergleichssatz herangezogen wird, kann nach Sprecherauffassung durchaus nicht den Tatsachen entsprechen, dient aber zum anschaulichen Vergleich. *Als* drückt eher die „Andersartigkeit“ (Eggs) des Vergleichens aus. Ob der Vergleichssachverhalt als faktisch gemeint ist, lässt sich oft schwer entscheiden, das Beckham-Beispiel kann durchaus real gemeint sein. Als ob lässt die Faktizität offen und verbindet sich (vor allem in Texten) oft mit dem Konjunktiv, der den Übergang in die Welt des Möglichen, bloß Gedachten kennzeichnet. — Hoffman (2021: 411)

als ob 文が事実を表わしているのか判断するのは難しい。ベッカムの例「ベッカムはそういうこと(困難なシュート)がすごく楽しいように見える。」は現実を表わしている可能性は十分にある。als ob 文は事実性についてはオープンだ。

- 橋本文夫 (211f.) は als ob 文を印象を表わす「間接話法」の一種とみなしている。
- (17) 「概ね咄嗟の印象であって、その真偽を確かめる余裕がないので、印象が事実か否かを保留して、間接話法の形をとるのが常である。/ *Er spricht Deutsch, als ob er ein Deutscher sei* (または *wäre*) 「彼はドイツ人であるかのようにドイツ語を話す」。(...) als ob er ein Deutscher sei は「明らかにドイツ人でないのにかりにドイツ人だった場合の如く」という意味ではなく、「おやおや、あいつはドイツ人なのかと咄嗟に思う位」の意である。」
- (18) 「非現実話法ならば地の文の時称が als ob 以下の時称に影響を及ぼすはずである。ところが *Er spricht Deutsch/Er sprach Deutsch, als ob er ein Deutscher sei/wäre.* というように als ob 以下の時称が地の文に無関係なところから見ても、間接話法であることがあきらかである。」

- 非現実話法の典型的なパターンは「仮想的前提」と「仮想的結論」の結びついたものである。前提部が独立した用法（Wenn der doch etwas früher angefangen hätte! あいつはもう少し早く始めたらなあ!）、結論部が独立した用法（Der hätte etwas schöner vortragen können. あいつはもう少しうまく発表できたろうに。）などもあるが、基本は「前提と結論」の結合だと言える。特に「前提」の内容が現実（事実）に反するという点が重要だとの指摘がある。 als ob 文の内容が現実（事実）に反することは必要ではない。

Anders als das Konsequens scheint das Antezedens jedoch nicht mit einem Kontext verträglich zu sein, der es eindeutig wahr macht, den beschriebenen Sachverhalt also als faktisch hinstellt. (Fabricius-Hansen/Solfjeld/Pitz 2018:44)

「結論部」とことなり「前提部」は、それが表わす事態を事実と思わせるような文脈とは相いれないようである。

#### [C] の結論

- als ob 文を非現実話法の一タイプとして説明するのは最善ではない。als ob 文は「印象」を表し、定動詞は接続法 2 式, 1 式, 直説法が可能で、定形の選択により反事実性の含みは異なるが、反事実性を前面に出した表現ではない。
- 必要に応じて、「間接話法」の一タイプ（～かと思った）として説明するのは良いが、3 用法のどこかに含めなければならないということでもない。

Duden (2019) Die Grammatik, 8. überarbeitete Auflage. Dudenverlag.

Duden (2011) Richtiges und gutes Deutsch. Dudenverlag.

Eggs, Frederike (2006), Die Grammatik von *als* und *wie*. Narr.

Engel, Ulrich (2004) Deutsche Grammatik, Neubearbeitung. iudicium.

Fabricius-Hansen/Solfjeld/Pitz (2018) Der Konjunktiv. Formen und Spielräume. Stauffenburg.

Hoffmann, Ludger (2021) Deutsche Grammatik. 4. Auflage. Erich Schmidt Verlag.

岡本順治(2014) 『解説が詳しいドイツ語入門』白水社.

在間進(2017) 『リファレンス・ドイツ語』第三書房.

関口存男(1980) 『ドイツ文法 接続法の詳細』三修社.

関口存男(1980a) 『新ドイツ語文法教程 第4版』三省堂.

中山豊(2006) 『中級ドイツ文法 — 基礎から応用まで —』白水社.

成田節・櫻井麻美(2018) 『ドイツ語文法の基礎 [改訂版]』同学社.

橋本文夫(1978) 『詳解ドイツ大文法』三修社.

浜崎長寿他(2008) 『動詞』ドイツ語文法シリーズ4. 大学書林.

三好助三郎(1977) 『新独英比較文法』郁文堂.

付録

(14)のような「まさか〜ではあるまいし」のようにタイプは別として、以下の Momo からの接続法 2 式の als ob 文などは、たとえ内容が現実と反することだとしても、「現実とは反する」ことを前面に出しているのではないように思える。「印象」なので、現実との一致不一致は主要な関心事ではないのだろう。以下は Momo の als ob+2 式の全 9 例。

- (19) Und wenn sie den ergreifenden oder auch den komischen Begebenheiten lauschten, die auf der Bühne dargestellt wurden, dann war es ihnen, als ob jenes nur gespielte Leben auf geheimnisvolle Weise wirklicher wäre als ihr eigenes, alltägliches.
- (20) Sie (Momo) hatte einen wilden, pechschwarzen Lockenkopf, der so aussah, als ob er noch nie mit einem Kamm oder einer Schere in Berührung gekommen wäre.
- (21) Nach einer Weile schien es, als ob er aus einer Art Betäubung wieder zu sich käme.
- (22) Die Fahrer traten aufs Gas, die Räder jaulten, aber die Autos liefen am Ort, etwa so, als ob sie auf einem fahrenden Band stünden, das mit gleicher Geschwindigkeit in entgegengesetzter Richtung lief.
- (23) Momo war es, als ob Meister Hora mit ihr durch einen langen dunklen Gang schritte.
- (24) Momo empfand es so schmerzlich, als ob etwas Unwiederbringliches für immer von ihr fortginge.
- (25) Sie fühlte sich nun so mutig und zuversichtlich, als ob keine Macht der Welt ihr etwas anhaben könnte, oder vielmehr: es kümmerte sie überhaupt nicht mehr, was mit ihr geschehen würde.
- (26) Ach, Beppo, lieber Beppo! « / Sie wollte ihm um den Hals fallen, aber sie prallte von ihm ab, als ob er aus Eisen wäre. Momo hatte sich ziemlich weh getan, und die Tränen schossen ihr in die Augen.
- (27) Da stand Nicola, der Maurer, (... ) Er stand da, eine Hand an den Mund gelegt, als ob er irgendwem etwas zuriefe, und mit der anderen Hand zeigte er auf die Öffnung eines riesenhaften Rohres, das neben ihm aus dem Boden der Baugrube ragte.